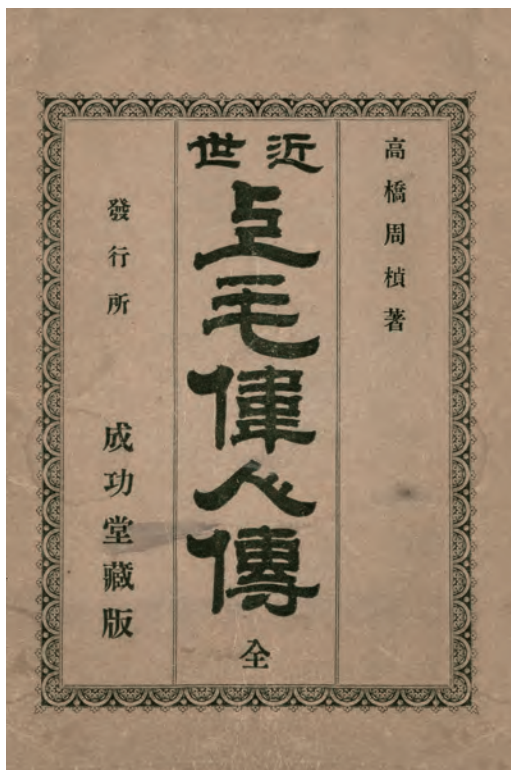


近世 上毛偉人伝 全

復刊版



群馬地域文化振興会

高橋周楨著

近世
毛偉人傳
全

發行所

成功堂藏版

序

欲知一國之風化者莫如徵其人物欲徵其人物者
置文獻何據矣上毛之地自古稱多英偉秀特之人
而文獻頗缺予竊慨焉頃者周楨高橋君搜古記訪
遺老以作一書題曰上毛偉人傳從忠孝節義下到
衆流雜技上下三百年載而莫遺眞爲良著偶依請
序喜以辨一言云爾

金井之恭撰

叙

古人ハ人ノ名ヲ成スニ汲々タリ是ヲ以テ一善一能之ヲ顯揚シテ一世ヲ勸誡シ後代ニ規模ス上毛ノ國ハ風氣ノ致ス處カ古ヨリ忠孝節義ノ士多シト稱ス然ニ載籍備ハラスシテ偉蹟良行往々湮没シ顯ハレス却テ謊誕乖戾ノ談ノミ村老里兒ニ傳ハルニ到ル慨嘆ノ至リニ堪エサルナリ頃者周楨高橋君近世上毛偉人傳ヲ著シテ慶長以後ノ忠臣孝子節婦義僕ヨリ歌人畫手ノ末ニ及フマテ苟モ世道ニ關スル者殆ント之ヲ

采擷シテ漏スナシ是レ其湮没シテ彰レサル者
ヲシテ名ヲ後世ニ傳フルヲ得セシムルノミナ
ラス大ニ上毛ノ人心ヲ勸懲シテ風教ヲ廣張ス
ルニ足ランカ

明治廿六年十月

安川繁成撰

我が上毛はいにしへより世にすられし人を出せることいと多かりそが中につきて遠くは新田義貞朝臣近くは高山正之大人のごときに至りては其績高く九重の雲の上に聞え廣く久方の天が下に傳はりてかくれなければ上毛のすられ人はよしや其勳功偉績にてはこれ等の人に及ぼすとも偉人傑士として傳ふべきものは猶その人少からず左れど其跡空しく埋もれて知る人もなき深山木の花さく春にあふ日なかりしをこたび高橋周植ぬしが尋ねもとめてその傳記をあみあつめ世に公けにせんとしてそがはしがきを請はるゝまゝに否みもやらで筆とりしはぬしの力によりて我が

上毛のすゞれ人のかくれたるよりあらはれて世にその光りをあらはし後の人の照らし見るべきかゞみともなりふみならふべき教へともならんことを愛でよるこびてのわざなりけり

明治二十六年十月

中村元雄志るす

近世上毛偉人傳序

高橋周楨君著近世上毛偉人傳求余序余以承乏教育之事若偉人傳記者欲常知之焉蓋教化之道雖不一非知一國人民之風俗習慣則如無楫而行舟雖有良法無復由施之欲知其風俗習慣則不可不知古今偉人之傳記自古史家之所以務搜偉人之事蹟者亦在知當時之實相焉耳凡爲一國人民之風俗習慣其原因自有二天然與人事是也如地勢風土者屬于天然如政治教育者屬于人事余聞上毛古來多偉人豈爲無其原因哉惟爲上毛之州西北奇峯秀嶺相重疊而所湧出其間之水皆遠注東南之渺茫沃野所謂山高水長而清淑之氣鍾者且以地勢位于關左之高

原自似下瞰他之諸州是其所地勢風土得於天然者歟至
人事則古今不必同一因教化之深淺大異其現象此豈非
徵古今之史乘而須要考究者哉偉人傳之要亦實存于此
矣今此編上毛近世之偉人殆如網羅靡所遺賴此編而知
當時之實相熟風俗習慣則於教化之道其裨益爲不鮮矣
是余所以不而辭辨一言於卷首也

明治二十六年九月

大東重善撰

自序

夫れ我か上毛の地たるや古來英傑の群生せし事は古史に徴して明かなり則ち新田氏の如き徳川氏の如き是なり然りと雖も徳川氏治世の後上毛は長脇差馬盜人の巢窟の如く言倣されたりと雖ども決して然らず而れども又其所以なきにあらざるなり抑も長脇差は坂東武者と稱へし古英雄の氣慨存する者にして強を挫き弱を助くるの俠骨則ち是なり馬盜人の稱亦此類なるへし余嘗て聞く幕政の當時は武藏の國を御膝元と唱へ如何なる大悪人あるも武州無宿と言はす之を上州或は甲州無宿と云又江戸日本橋を境とし以南の

賊は悉く之を甲州無宿とし以北を上州無宿とし日本
全國の悪徒を甲毛二州の者となす因て二州より出る
賊徒多きか如し是馬盜人の稱起る所以（馬の字を冠す
るは他に其原
由あり）にして冤亦甚しと云ふべし余曩に上毛の新聞紙
上に顯るゝ悪徒を調査せしに自國より出る悪徒より
他國より入込みし者十中の六七に居るを見出せり是
にして此名を蒙る慨歎に堪へざる所なり我上毛小な
りと雖も慶長以降三百年の久しき忠臣孝子技藝の士
少しとせず然るに醜名に覆はれ英傑の士の輩出せし
を知らざる者多きのみならず恐らくは其名其績の湮
滅して傳記を後世に遺さざるを依て刀圭の餘暇之を

蒐輯して上毛偉人傳の著ある所以なり